

平成23年度第2回鹿児島市地域情報化推進委員会概要

- 1 開催日時  
平成23年11月16日（金） 11:00～12:03
- 2 開催場所  
鹿児島市役所東別館9階特別中会議室
- 3 出席者  
(1) 委員12人  
(2) 事務局6人（総務部長、情報システム課長、情報システム課4人）
- 4 会次第  
(1) 鹿児島市の情報化に関する市民意識調査について  
(2) 第二次鹿児島市地域情報化計画の推進状況について  
(3) その他
- 5 議事の概要

発言者 発言内容

(1) 鹿児島市の情報化に関する市民意識調査について

事務局	(資料に基づき説明)
委員	情報通信機器の保有率の推移で、スマートフォンの保有率について本市が国より大きいのが、市としてのどのように分析しているか。
事務局	国のデータは平成22年度の調査結果を利用している。調査時期が市と異なるので、その間急速にスマートフォンが普及してきているのではないかと。 また、携帯やパソコンについて、本市の保有率が減少しているように見えるが、これは携帯やパソコンの利用者が、スマートフォンやタブレット端末へ乗り換えているのではないかと考えています。 携帯、パソコン、スマートフォン、タブレット端末の各保有率を足せば、全体では前回と比較して増加しています。
委員	携帯電話とスマートフォンの区分について、国と市の質問項目は同じか。
事務局	同じです。
委員	対象者など、前回とのバランスや比率は違うのか？
事務局	前は20歳から79歳を対象としていましたが、今回は18歳から19歳も対象に加えて調査しています。
委員長	若い人の調査対象が増えたというが、前回と比べて50歳以上が増えたのではないかと？
事務局	実際に回答いただいた方の年齢構成は40歳以上の方が多いです。
委員	高齢者の利用についての詳細はどうなっているのか。
事務局	年齢別の分析も実施したいと考えています。
委員	市のホームページは目的を持って訪れる人向けのページであり、漠然と情報を探しに来た人には面白くない。広報誌を利用している人が多いことから色々な情報媒体の一つとして考えたほうがいい。

	調査回答の意見で、良いホームページと例示されたサイトは、観光を意識して作られており、見た目が楽しい感じの画面になっている。市の観光のページは見た目を楽しく別のページにするなどしてはどうか。
委員長	ホームページについては情報提供優先ということが以前の会議であった。
委員	ブロードバンドの普及など使用しやすい環境も整ってきていると思うが、インターネットの利用が接続速度と地域との連動性があるのかなど調べた上で、第三次計画に取り入れては。
委員	ネットは必然と考えているが、情報モラルや個人情報の保護など心配である。震災でのツイッター利用など効果的に使っていくのが大事。ホームページは誰を対象としているのかよくわからない。初めて訪れた人にも見てみたいと思わせるようにできればいいのでは。
委員	市の情報発信はネットより紙媒体の方が早い。民間ホームページも更新がなかなかされていないものが多い。使う側のリテラシーアップも必要ではないか。お年寄りの携帯利用が多く見られるが、市の情報をそれで活用するところまでにはしていない。
委員	次回調査においては、高齢者の医療制度等を意識すると年齢層区分において、65歳や75歳を設けることが必要ではないか。全人口に占める年齢構成比をベースにして、年齢構成の多いところからは多く調査するなどしてはどうか。今回の調査分析においては、市内の地域間の比較が見られた方が公開した際に市民が関心を持って見るのではないか。
委員長	「情報化による市民サービスの利用意向」の結果は第三次計画にほぼ取り入れるような形でいって欲しい。
委員	情報化の浸透は、インターネットの利用率などで見られる。また、一方で情報化に対する不安やリテラシーの課題がある。第三次計画では、これら課題への対応も必要ではないか。
委員	年齢階層別のインターネット利用率でみると、40歳以上の年齢層で国との差が大きいのが気になる。特に40代は仕事でインターネットを利用するはず。職業別の分析も必要ではないか。
委員長	学生対象の調査はできないか。
事務局	未成年対象は難しいものがある。
委員長	40歳以上の方からの回答が多いので、高齢者向けの情報化計画になってしまうのでは。
委員	大学生間の情報格差が大きい。興味がなく高校生までに教わらなかった学生のリテラシーが低い。市立高校での調査をしてはどうか。
事務局	市立高校での調査については教育委員会と調整してみる。
委員長	委員は報告書をもらえるのか
事務局	年度内には送付する予定で。

(2) 鹿児島市の情報化に関する市民意識調査について

事務局	(資料に基づき説明)
委員長	前回の委員会で進捗が見込めないのではという6件を再確認してもらった。具体策「交通カードシステムの有効活用」は「マルチペイメントネットワーク対応」とからむのか？
事務局	前者はラビカを使用した支払い、後者はインターネットバンキングを利用した支払いということで決済手段が違う。

委員	具体策「図書館蔵書のＩＣタグ管理」「バスロケーションシステムの導入」「交通カードシステムの有効活用」について検討の内容を教えて欲しい。
事務局	「図書館蔵書のＩＣタグ管理」については調査の結果、システム導入経費が多額になるため、費用対効果の面から次期システム更新に向けて精査中である。
委員	今はバーコードで本を管理していると思うが、ＩＣタグについては技術的に可能なのか。
事務局	技術的には可能である。導入している自治体もあるので前向きに検討していきたい 「バスロケーションシステムの導入」と「交通カードシステムの有効活用」については、市の交通局だけでは解決できない。他のバス事業者との協議が必要となりなかなか難しい。 「バスロケーションシステムの導入」は市のみで運用している「電車システム」との連携で、一部でも導入できないか検討している。 「交通カードシステムの有効活用」はラピカの割引制度や、交通カードに特化している点で課題が大きい。
委員長	検討結果はまた報告してもらいたい。 バスロケーションはなにか説明できるものがあるのでは。
事務局	かごしまＩＴフェスタで簡易な形のバスロケーションシステムを運用する予定である。
委員長	その他になにかあるか。
	(他は特になし)

(3) その他

事務局	かごしまＩＴフェスタについて説明
-----	------------------

以上